



慶應義塾大学ビジネス・スクール

フマキラー・インドネシア

5

「インドネシアは蚊取り線香の世界最大のマーケットです。」山下修作社長率いるフマキラー・インドネシア (PT. Fumakilla Indonesia) は、インドネシア国内に3つの生産工場を持ち、年間約12億枚(ダブルコイル^[1]ベース)の蚊取り線香、およびノンコイル製品(エアゾール、マット、リキッド)を製造・販売している。ジャワ島以外の線香市場では推定40%強の市場シェアを達成してすでに安定的第1位となっている^[2]。インドネシア全土(付属資料1)の蚊取り線香市場は年間約37億枚(1250万ケース)^[3]であり、同社の生産量約12億枚から輸出分を除くとインドネシア国内での販売数は約9億枚強、全土市場シェアでも約25%となり、2010年には全土でも第1位となった(付属資料3)。ちなみに家庭用蚊取り薬剤市場全体は、推計2.4兆ルピア(以下RPと表記、約230億円)で、その50%強を蚊取り線香が占めている。

10

15

日本の家庭用殺虫剤市場におけるフマキラー

フマキラー株式会社は、日本における家庭用殺虫剤の大手メーカーである。日本の家庭用殺虫剤市場は約1,115億円/年であり、フマキラーはそのうち15%のシェアを占める第3位で、アース製薬の40%、大日本除虫菊(キンチョー)の25%に次ぐ規模である。ほぼこれら3強メーカーで市場の8割が占められている。白元(同7%)やライオン(5%)等がそれに続く。ちなみにフマキラーという社名は、英語の「fly(ハエ)、mosquito(蚊)、killer(殺すもの)」に由来

20

25

^[1] ダブルコイルとは、蚊取り線香2本を1組に合わせたシートのこと。(付属資料9)

25

^[2] PRESIDENT 2010年2月15日号「インドネシアの蚊は日本の5倍強い:500兆円『ネクストマーケット』の全貌3」

^[3] 1ケース=60箱=300ダブルコイル

本ケースは、2011年7月15日に行われた同社タンゲラン工場の取材、同地でのP.T. Fumakilla Indonesia社長、フマキラーヒ専務取締役 山下修作氏および経営幹部へのインタビュー、同社バン営業部隊との同行取材、ならびに公開資料に基づき、慶應義塾大学ビジネススクール准教授 岡田正大によって作成された。本ケースはケース討議のために事実関係を示す資料として作成されたものであり、経営の巧拙を論評したものではない。(作成協力:M33期修士課程 新井将英、鈴木悠大)

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 岡田正大(2012年6月作成)